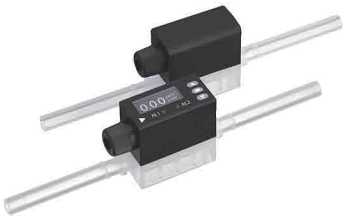


# ユーザー待望の温度補正付き渦流量計 (特許出願)を1月より先行販売

## コフロック

コフロック(京都府京田辺市、小島望社長)は1995年から販売しているロングセラーの液体用渦流量計「FML・31シリーズ」を、ユーザーの要望を取り入れて大幅に改良。渦流量計では初となる温度補正機能をつけてコンパクトに仕上げた新製品「FML・300シリーズ」を1月より先行販売している。

流れの中に柱状物体を挿入すると、その後方には規則的なカルマン渦が発生する。渦流量計はこの原理を応用したもののだが、流体の温度が変わるとカルマン渦の規則性も変化してしまい、正しく流量を測定することができなくなる。



温度補正付き渦流量計FML300series

そのため、これまでユーザーは渦流量計とは別に温度センサーを設置し、独自に補正回路を用意して温度補正を掛けるを得なかった。

新製品「FML・300シリーズ」は、内部にこの温度センサーを組み込んだオールインワンタイプで、自動的に温度補正を行うため、ユーザー側が温度センサーや補正回路を別途用意する必要がない。しかも本体サイズを50×26mmと省スペース化、設置の自由度を上げた。温度を出力することもできるため、「温度センサー」としても重宝する。木戸啓二取締役は「表示機能付きの要望も多かったので、シンプルで見やすい表示器タイプも作った。また、工場での液体流量計測は50台並べて配置する場合もあり、それぞれの流量やアラーム設定などを全機種個別に行うのは大変。新シリーズは、デバイス番号を設定し、パラメーターの設定や書き換えをユーザーが全て一括で行える。そのため、工数が減り、現地で

の立ち上げ作業はかなり楽になる」と製品メリットを語った。

同社は同新製品を21年12月28日からのセミコン台湾にて初披露し、今年の6月より本格販売を開始するが、それに先立ち、一部ユーザーへは1月より先行販売している。メインには半導体洗浄市場をターゲットとしており、現在、この分野で引き合いが多数あるが、同時に歯科医療機器で注水タイプの電動スクレーパー、グラインダー、ジェットウォッシュャー等に渦流量計が採用されるため、歯科医療向けにもコンパクトでオールインワンの強みをアピールする。

## 全社で再生可能エネルギーにシフト

なお、同社は、関西電力の「再生エネCOプラン」に加入し、2022年1月1日より、京都本社や本社工場、八幡工場で使用するすべての電力を再生可能エネルギー由来の電力に切り替えている。これは、太陽光、水力、風力等非化石証書を持つCO<sub>2</sub>排出ゼロの付加価値電力であり、SDGsに即した環境方針に則り「今後も事業活動の環境負荷低減に積極的に取り組んでいく」としている。